

Formula NIPPON NEWS 2009.06.28
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第4戦・決勝 [富士スピードウェイ]

<P.3を修正>

デュバル(NAKAJIMA RACING)が雨中のレースを完勝

大嶋(PETRONAS TOM'S)が2位、今季ルーキー中初の表彰台

6月28日、富士スピードウェイで行われた全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第4戦の決勝レースは、強い雨という厳しいコンディションで行われ、No.31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING) が優勝。そして、No.37 大嶋和也 (PETRONAS TOM'S) が、今季のルーキーで表彰台一番乗りとなる2位に入賞を果たした。

フォーミュラ・ニッポンのスタート進行が始まる13時30分過ぎ、雨が激しくなり始める。決勝前のウォームアップ走行は路面が滑りやすい状況で、No.41 伊沢拓也 (DOCOMO DANDELION) が100R入り口でスピンし、ダミーグリッドに着くことができず、最後尾からのスタートになった。

そして、午後2時30分。雨が多いため、セーフティーカーの先導でレースはスタート。全13台が隊列を組み、タイヤを温めながら周回。3周を終えた時点でセーフティーカーがコースから退去し、実質的なレースがスタート。ポールポジションのデュバルがトップで1コーナーに。No.8 石浦宏明 (Team LeMans)、No.20 平手晃平 (ahead IMPUL) と続いた。その後方でNo.1 松田次生 (LAWSON IMPUL) にNo.10 塚越広大 (HFDP RACING) が迫る。塚越は雨で視界がきかない中、1コーナー立ち上がりからの加速で松田の前に出ると4番手に浮上。その後、松田は塚越を追撃するが、なかなか逆転ができない。その後方では、No.36 アンドレ・ロッター (PETRONAS TOM'S) がチームメイトの大嶋をパス。続いてNo.32 小暮卓史 (NAKAJIMA RACING) も8周目のダンロップコーナーでかわす。ランキングトップのNo.2 ブノワ・トレルイエ (LAWSON IMPUL) も4周目にNo.7 国本京佑 (Team LeMans)、7周目にはライアンをとらえて、ジワジワとポジションアップ。その後も、大嶋に迫った。一方、松田に追われていた塚越は、10周目の1コーナーのブレーキングでオーバーラン。松田だけでなく、ロッターの先行も許した。この頃、トップのデュバルは2番手の石浦に対し、1周1秒ずつ差を広げていった。

15周目には、大嶋を追っていたトレルイエがシフトにトラブルを抱えてスローダウン。16周終りでピットガレージにマシンを入れてしまう。ほぼ同時に松田が燃料ポンプのトラブルのため、17周目の300Rでマシンを止めた。松田がストップしたことで目の前が開けたロッターは、トップのデュバルと同等のハイペースで、今度は前を行く平手を追う。追われる平手は26周目にミス。ロッターがヘアピンでアウトから並びかけ、3番手に浮上した。トップのデュバルは独走状態でレースは決まりに見えたが、34周目にアクシデントが発生。伊沢が100Rの出口でスピンし、コース上でストップ。これでセーフティーカーが導入された。これを見て、多くのチームが動く。トップのデュバルをはじめ、石浦、平手、塚越、小暮が続々とピットイン。一方、ロッター、大嶋、ライアン、さらに目の前にセーフティーカーが入ってしまった立川はピットに入らなかった。

ここでまたハプニングが発生。セーフティーカーは、35周を終えたところで立川を前に出し、立川が隊列の最後尾についた所で再スタートが切られるはずだった。ところが立川を前に出した後、セーフティーカーはこの時点でトップに立っていたロッターをも前に出してしまう。これで順序が崩れたため、デュバル以下のマシンをすべてもう一度前に出し、隊列を組み直すことになる。この間に、ロッターはピットイン。給油を終えてコースに戻ろうとするが、セーフティーカーの隊列と重なって、コースには入れず。結局、9番手となった。

レースがリスタートしたのは、38周終了時。ここでもデュバルはトップのまま1コーナーへ。これに無給油の大嶋、ライアン、給油した石浦、平手、塚越らが続く。結局、その後、トップ集団に順位の変動はなく、デュバルがそのまま優勝。2位に大嶋、3位にライアンが入賞した。

今回の結果により、デュバルは一気にシリーズポイント11を獲得。対するトレルイエはノーポイントで、2台の差は1ポイントとなった。シリーズ前半を終えて、まさに勝負は振り出しに戻った形。再来週に行なわれる鈴鹿での第5戦から、シリーズタイトル争いはさらにヒートアップすることになるだろう。

Formula NIPPON NEWS 2009.06.28

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン

第4戦・決勝 [富士スピードウェイ]

<P.3を修正>

決勝トップ3 ドライバーのコメント

優勝 No. 31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING)

とてもハードな1日だったね。昨日、ドライコンディションでポールポジションを獲ったので、決勝もドライだったらイケるっていう風に思える。精神的にはドライコンディションでレースをしたいなって思うよね。まずそれが期待通りに行かなかったから、レースはタフだった。雨の量が刻々と変わって、路面のコンディションもそれによって変わってくるし、アクアプレーニング（タイヤと路面の間に水が入って滑る現象）に乗ったり、そこから状況が良くなったり。それに、セーフティーカーが入ったことで、それまでに築いてきたギャップも全部フイになってしまったから難しかった。でも、チームは、どんなコンディションでも戦闘力があるいいクルマを用意してくれたし、今日はスタッフのためにも優勝することができて良かったよ。

決勝2位 No. 37 大嶋 和也 (PETRONAS TEAM TOM'S)

雨が結構強かったの、燃費が良くなると予想して、満タンでスタートしました。スタートからずっと、全開で走れない状態が続いていたので、“アクセルを踏みたいな”とずっと思っていたんですけど、2位でゴールした途端にすべてがブツ飛びました。無給油作戦は、決勝前のウォームアップで走ってみて、行こうと決めました。でも、全然イケるっていう確信もなかったですし、毎週ヒヤヒヤしながら、なるべくガソリンを使わないようにして走らなきゃいけないんですけど。それでも、どんどん後ろから近づいてくるので、ガソリンを使わず、ペースを速く保って走れるように心がけました。

決勝3位 No. 40 リチャード・ライアン (DOCOMO TEAM DANDELION RACING)

すごくいい1日だったと思う。表彰台に戻ってこられたので、とても嬉しい。今日はとてもトリッキーなコンディションだったよね。その中で、僕らが心がけていたのは、トラブルを出したり、ミスをしなくてコース上に留まること。もちろん戦略としては無給油作戦を選んだんだけど、それが正解だったね。今日のレースでは、ドコモのシステムによるピットとの無線交信の状態がとても良くて、まるでエンジニアがすぐ横に座っているみたいに感じられたので心強かった。残り10周ぐらいからは、十分に燃料も残っていたし、2位を狙えるんじゃないかと思ったんだけど、あまりにも視界が悪かったし、これ以上ブッシュするのは危険ということで、とにかく表彰台に上ることを考えたし、実際に表彰台に上がったのでとても良かったよ。

優勝チーム監督 中嶋 悟 (NAKAJIMA RACING)

ご覧のように大変な天気でした。その中でノンストップのドライバーが2名ここにいるんですが、当初は我々も同じ作戦を取ろうかと思っていました。セーフティーカー・スタートになったので、助かったなと思っていました。でも、15周を過ぎたところで、我々の計算が間違っていたことが分かって、“あ、これはダメだ”と。そこからは作戦を変えました。結果的にロイック（デュバル）が2勝目を上げることができて非常に良かったです。昨日の予選でも、彼にとって初めてのポールポジションを獲ることができて、上手く行っているのかなと思いますね。本当に大変な中を走り切っていただいて、感謝しています。

Formula NIPPON NEWS 2009.06.28
 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
 第4戦・決勝 [富士スピードウェイ]
 <P.3を修正>

第4戦富士・決勝結果

富士スピードウェイ 4.563km × 55Laps= 250.965km

■開始/終了時間: 14:30~16:13 | 天候: 雨 | コース: ウェット | 気温/路面温度: 19°C/22°C

Po	No	Name	Team	Laps	Time	Gap
1	31	ロイック・デュバル	NAKAJIMA RACING	55	1:43'02.140	
2	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	55	1:43'42.700	40.560
3	40	リチャード・ライアン	DOCOMO DANDELION	55	1:43'44.561	42.421
4	8	石浦 宏明	Team LeMans	55	1:43'47.158	45.018
5	20	平手 晃平	ahead IMPUL	55	1:43'48.882	46.742
6	10	塚越 広大	HFDP RACING	55	1:43'50.028	47.888
7	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	55	1:43'55.191	53.051
8	36	アンドレ・ロッター	PETRONAS TOM'S	55	1:43'56.428	54.288
9	48	立川 祐路	CERUMO/INGING	55	1:44'12.394	1'10.254
10	7	国本 京佑	Team LeMans	54	1:44'22.442	1Lap
* * * * 以上完走(規定周回数 49Laps) * * * *						
	41	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	32		23Laps
	2	ブノワ・トレルイエ	LAWSON IMPUL	20		35Laps
	1	松田 次生	LAWSON IMPUL	16		39Laps

◎Fastest Lap: No.31 ロイック・デュバル(NAKAJIMA RACING) 1'40.822(162.929km/h) /44Lap

■シリーズ・ランキング (2009年第4戦終了)

◎ドライバーズ

Rank	No	Name	Points
1	2	ブノワ・トレルイエ	27
2	31	ロイック・デュバル	26
3	20	平手 晃平	16
4	10	塚越 広大	15
5	32	小暮 卓史	14
6	8	石浦 宏明	12
7	36	アンドレ・ロッター	11
8	40	リチャード・ライアン	11
9	41	伊沢 拓也	10
10	37	大嶋 和也	10
11	48	立川 祐路	4
12	1	松田 次生	3

◎ルーキーズ

Rank	No	Name	Points
1	10	塚越 広大	15
2	37	大嶋 和也	10
3	7	国本京佑	0

◎チーム

Rank	No	Name	Points
1	31/32	NAKAJIMA RACING	38
2	1/2	LAWSON IMPUL	29
3	40/41	DOCOMO DANDELION	21
4	36/37	PETRONAS TOM'S	21
5	20	ahead IMPUL	15
6	10	HFDP RACING	15
7	7/8	Team LeMans	12
8	48	CERUMO/INGING	4

※初出版で NAKAJIMA RACING のポイントが誤っていました。お詫びするとともに、上記の通り訂正いたします。

【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション
 広報担当 石原 media@f-nippon.co.jp